



お待ちせしました!

KAPA ライブラリー定量 (LQ) キット KAPA Library Quantification Kit

スペシャルパッケージ発売!

いつも当社製品をお使い頂き、誠にありがとうございます。
この度、KAPA ライブラリー定量 (LQ) キットをお使いの皆様にお得にご購入頂けるスペシャルパッケージをご用意致しました。
価格などの詳細はお気軽に営業担当までお問い合わせください。



※所有されているシーケンサーとqPCR装置の組み合わせにより、キットをご選択ください。

Cat.No.	包装単位	価格 (税抜)
下記よりお選びください	1000回用 (500回用×2)	お問い合わせください

	Universal	ABI Prism®	ROX Low	Roche LightCycler® 480
qPCR装置	キャピラリータイプのLightCycler®を除く、ほとんどの機器に使用可能 illumina Eco	ABI7500, ViiA™7, QuantStudioを除くABI社機器	ABI7500 / ViiA™7 / QuantStudio / Stratagene MX3000P™ / MX3005P™ / MX4000™	LightCycler® 480 / 96 / Nano (キャピラリータイプのLightCycler®には対応していません)
次世代シーケンサー				
illuminaGA / HiSeq / MiSeq / NextSeq500 *1	KK4824/D	KK4835/D	KK4873/D	KK4854/D
Ion Proton / Torrent *2	KK4827/D	KK4838/D	KK4874/D	KK4857/D

※上記に記載のないキット (454FLX、SOLiD用など) のスペシャルパッケージもお取り扱いがございます。詳しくはお問い合わせください。

*1: キットに含まれるプライマー配列は、TruSeqキットにも適合することが確認されております。

illumina Primer P1: 5' -AAT GAT ACG GCG ACC ACC GA-3'

illumina Primer P2: 5' -CAA GCA GAA GAC GGC ATA CGA-3'

*2: キットに含まれるプライマー配列は以下のとおりです。

Ion Torrent Primer IT A : 5' -CCA TCT CAT CCC TGC GTG TC-3'

Ion Torrent Primer IT trP1: 5' -CCT CTC TAT GGG CAG TCG GTG AT-3'

次世代DNAシーケンシングと次世代エンジニアqPCR用酵素の融合

- 信頼性の高い定量化法(qPCR法)により画期的な効率改善が得られます。
- GC,ATリッチでも安定した結果をもたらします。
- ロット間差を最小限に抑えたバリデーション済み6種類のDNA定量スタンダードが希釈済みで添付されています。
- 他の方法では得られない再現性
- コストと細心の注意を払って調整されたライブラリーに最適なクラスター定量手法です。

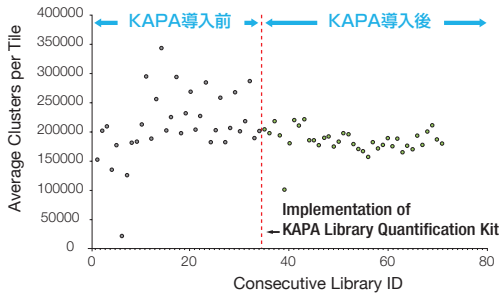
保存条件 -20℃で1年間 (30回凍結融解可能)

キット内容

- 5ml KAPA SYBR FAST qPCR Kit (2×)
- 1mlプライマー・プレミックス
- 6×80μl DNA定量スタンダード

参考文献 Fisher et al, Genome Biology 2011, 12:R1

信頼性の高い定量化による安定したクラスター形成

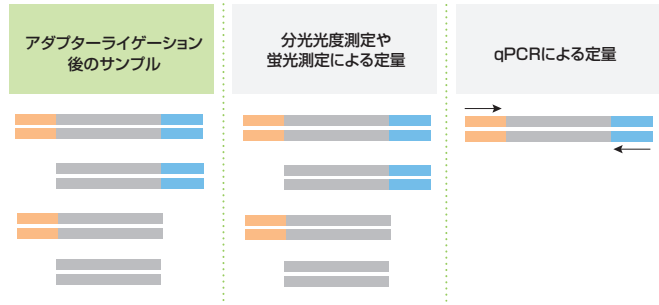
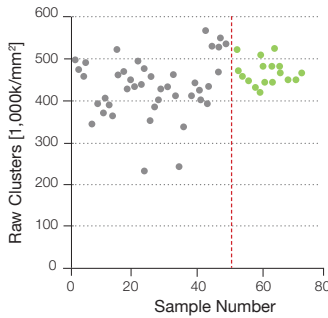


ライブラリーの定量化にqPCRを導入する前は、クラスター形成はまったく安定しませんでした。しかし、KAPA Library Quantification Kitを我々のワークフローに導入したところ、多くのライブラリーで変動性が大きく減少し、クラスター増幅滴定の手間が省けました。
ブロード研究所 (アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 ケンブリッジ)

KAPA Library Quantification Kitを使用する前後のクラスター形成の比較

ブロード研究所におけるillumina GAシーケンシングのワークフローにKAPA Library Quantification Kitsを導入したところ、クラスター形成の変動性が大きく減少し、滴定の必要がなくなった。1タイルあたりの平均クラスター数がそれぞれのライブラリーに示されている。

qPCRは、PCRで増幅可能なライブラリー分子だけを定量します



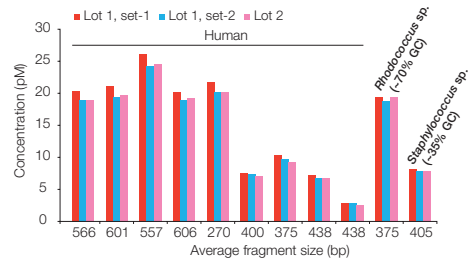
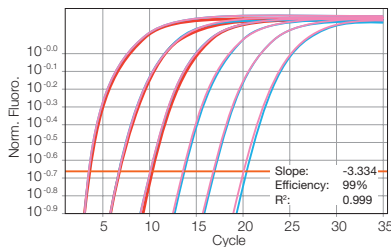
qPCRベースのKAPAライブラリー定量キットはA社泳動解析装置よりも、クラスター密度のパラツキを抑えます。

ヒトエクソームサンプルを、Nimblegen溶液ベースのキャプチャを用いて調製しました。調製はすべて、リキットハンドリングシステムの96ウェルプレート・フォーマットで実施しました。データは、illumina GAIIxでペアエンド76bpを解析したときの1タイルあたりのクラスター数です。
このデータはワシントン大学のご厚意で掲載させていただきました。

分光光度測定法、蛍光分析法および電気泳動法と比べ、qPCRはアダプター結合したライブラリー分子および増幅可能なライブラリー分子だけを定量します。

アダプター (オレンジとブルー) がライブラリー DNA分子 (グレー) の両端へ結合しますが、図のようにアダプターが結合しない分子が混合した状態となります。しかし、次世代シーケンスでは、最適なクラスター密度やテンプレート: ビーズ比は、「PCR増幅可能なDNA分子」の濃度に依存します。
泳動解析法や分光光度測定法で濃度測定した場合、これら混合した分子全ての濃度を測定してしましますが、一方、両端にアダプターを持つライブラリーのみを測定するqPCRベースのライブラリー定量法では、最適なライブラリー濃度を得ることができます。

ロット間差を最小限に抑えた信頼性の高いDNA定量スタンダード



Roche Titaniumシリーズ・プラットフォーム向け KAPA Quantification Kitのロット間差

各定量スタンダードセットの増幅プロットを分析し、3つの異なるロット (レッド、ピンク、ブルー) を比較した。各データ点の3反復を平均化した。

ロット間、キット間での最小の変動性

9つのヒトDNAライブラリーと2つの微生物DNAライブラリーを用い、定量結果の比較をした。異なるロット (Lot 1とLot 2) と、illumina GAプラットフォーム向けKAPA Library Quantification Kitsの同一ロットから得た異なる試薬のセット (set 1とset 2) を用いた。

製品情報、資料、価格等のお問い合わせ先

✉ info@genetics-n.co.jp または下記フォームにご記入のうえ、FAXしてください。 **FAX 03(3813)0962**

ホームページにも専用お問い合わせページがございますのでご利用ください。

氏名 (ふりがな)			
施設・会社名			部署・研究室名
メールアドレス			
			お電話番号

価格は2015年3月現在のものです。製品は改良のため予告なく変更する場合があります。

Genetics 日本ジェネティクス株式会社

<http://www.n-genetics.com>

本社: 〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号 後楽森ビル18F
Tel. 03(3813)0961・Fax. 03(3813)0962
西日本営業所: 〒604-8277 京都府京都市中京区西洞院通御池下ル565番地 ラファイネ御池3F
Tel. 075(257)5421・Fax. 075(257)5422